

一〇二二年一月二九日

宝塔の屋根に集ひて寒雀  
冬の日の光芒ひろぐ凧の海  
寒月や猫の密会ガラス越し  
あひ互い声かけそびるマスクかな  
朝詣で供花のバケツの厚氷  
指先で山崩し選る初みくじ  
北風に押されてかへる家路かな  
朝日出づ霜のダイヤを散りばめて  
雪しまく五重の塔のシルエット  
寒禽の声に研がるる力石  
風花や高灯籠の苔むして

なつき  
わかば  
冬凧の沖は補陀落かと思ふ  
素秀  
力石四角三角宮四温  
さざんかの花びら載せて力石  
はく子  
雪時雨人影のなき直売所  
はく子  
風花が向かつてくるよ一両車  
よし子  
タイヤ跡S字を描く雪の朝  
こすもす  
浮き玉の一つ一つに冬鷗  
素秀  
うつぎ  
よう子  
うつぎ  
むべ  
なつき  
よう子  
凡士  
力石四角三角宮四温  
さざんかの花びら載せて力石  
はく子  
雪時雨人影のなき直売所  
はく子  
風花が向かつてくるよ一両車  
よし子  
タイヤ跡S字を描く雪の朝  
こすもす  
浮き玉の一つ一つに冬鷗  
素秀  
うつぎ  
よう子  
うつぎ  
はく子

霰打つ打たるる儘に万歩計

うつぎ

と見る間にそらかき曇り風花す

わかば

冬凧の沖は補陀落かと思ふ

素秀

さざんかの花びら載せて力石

はく子

雪時雨人影のなき直売所

はく子

風花が向かつてくるよ一両車

よし子

タイヤ跡S字を描く雪の朝

こすもす

浮き玉の一つ一つに冬鷗

素秀